

文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業

「地域力再発見をめざす大学と地域との連携・協働による実践的研究」

# 2011年度稲爪神社秋祭り 調査報告書



神戸学院大学 地域研究センター 2012年2月発行

# 稲爪神社について

津田 智也

## ①稲爪神社とは？

稲爪神社（いなづめじんじゃ）は兵庫県明石市大蔵本町に鎮座する神社。えんぎしき延喜式

じんみょうちょう神名帳の伊和都比売神社に比定さ

れる神社のひとつ。

主祭神は大山祇神、面足神 創建は推古天皇とされている。

例祭は10月に行われ、主な神事は神楽獅子舞とされている。



図1：稲爪神社正面

## ②由緒

推古天皇の頃、三韓より鉄人8000人を率いて来襲した。討伐を命じられた伊予国の小千（越智）益躬は、故郷の大山祇神社の祭神である大山祇神に祈ったところ、鉄人が明石についたとき、稲妻とともに大山祇神の祭神が姿を現し、鉄人の唯一の弱点である足裏を射よと告げた。これに驚いた鉄人を益躬が矢で射殺した。小千益躬は大山祇神に感謝し、大山祇神が現れた地に大山祇神社を勧請したことに始まると伝えられる。

古くは稲妻大明神と呼ばれていたが、稲妻が転訛して「稲爪」となったと伝えられる。また、小千益躬の子・武男により、小千益躬の霊を祀った社が、現在の大蔵八幡神社とされる。

1578年（天正6年）高山右近の大蔵城攻めの兵火により社殿は焼失し、北方に遷座し、そこを仮宮とした。

1637年（寛永14年）、社殿が再建され元の地に遷座し、仮宮のあった場所に明石藩主・松平光重が熊野三社頭現を勧請し、熊野皇神社となった。1977年（昭和52年）、失火によって社殿が焼失したが、1979年（昭和54年）に再建された。



図2：稲爪神社境内

③稲爪神社の主な祭り

1) 初えびす祭

時期：毎年1月9日～11日

漁師や商人が集団で祭祀をおこなう信仰結社的な意味合いもあるが、えびす講は各家庭内での祭祀の意味も持つ。



図3：初えびす祭

2) 茅の輪くぐり

時期：7月の第一土日

今年、半年間の罪汚れを祓う行事



図4：茅の輪くぐり

3) 継ぎ神社、牛乗り神事

この2つの行事は「稲爪神社 秋祭り」で有名である。

時期：10月上旬

タイムスケジュールとしては以下の通りになっている

◆宵宮

- 18：00～大蔵谷獅子舞
- 19：00～囃口流し神事
- 20：00～大蔵谷獅子舞

◆本宮

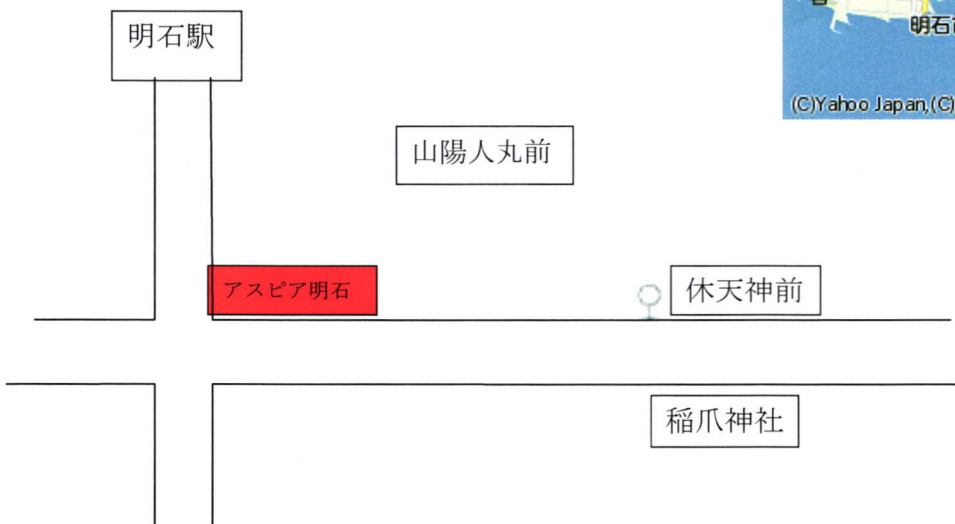
- 13：00～御輿渡御
- 16：00～牛乗り神事



図5：牛乗り神事

④稲爪神社 アクセス

- ・山陽電車人丸前駅から徒歩15分



# 稲爪神社秋祭りの概要

小野貴紀

## スケジュール

2011年10月8日（土）宮入神事

午後六時～九時

大統、大蔵谷の早口流し、大蔵谷獅子舞西乃組保存会、大蔵谷獅子舞保存会が次々と宮入奉納を行う。

2011年10月9日（日）正午に本宮祭・神幸祭の祭典実行

午後一時

旧西国街道神社南詰からお先太鼓・稚児バス・鳳輦御車が列をなし、陸渡が出立

午後四時三十分

氏子中を神幸し八幡神社に到着。

（神幸祭の主な順路）

魚の棚→銀座通り→太寺→人丸町→東野町→朝霧二丁目→松が丘→旧漆山→朝霧

→朝霧一丁目→権現社→八幡神社

（パレード）

午後四時三十分頃から、西国街道を八幡神社から猿田彦を先頭に大蔵中学校ブラスバンド部・牛乗り行列・稚児行列・町内会子どもみこし・踊り連等が進む。

十月十日（月）荒神祓いの儀

古式にならない、神楽獅子が氏子地域を祓いに廻る。

## 大蔵谷の囃口(早口)流し

早口流しとは、江戸時代から400年以上続いている庶民の流行歌の一種であり、当時の風俗を面白おかしく歌いあげたものが起源となっている。稲爪神社の早口流しは宵宮で披露され、浴衣姿の女性の三味線に合わせて浴衣姿の男性が顔を扇子で隠しながらユーモラスに歌い上げるといった形をとっている。明石市の指定無形文化財に指定されている。

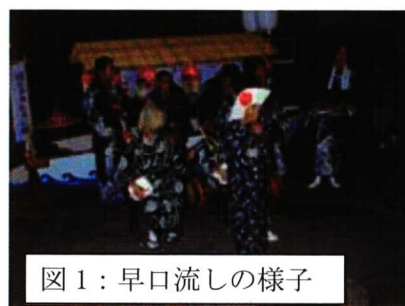


図1：早口流しの様子

## 大蔵谷の牛乗り

神事として本宮の夕刻神社内で牛乗りの陣屋と儀式を司る大統の当宿との間を、儀式のやり取りの為の口上を述べながら七度半行き来し、最後に牛乗りが「千年も万年も大蔵谷の浦において、千と万と大祝小祝いつづき候」と幸運を授ける呪文を唱える。八幡神社から稲爪神社への参拜行列と間「福銭」を撒きながら進んでいく。幸運を授かろうと多くの参拝者が街道を埋める。

(牛乗りの神事は稲爪神社の創建の縁起を伝えると言われている。)



図2：大蔵谷の牛乗り

## 大蔵谷の獅子舞

起源は戦国時代の末、九州の大蔵藩の秋月種実が上洛のおり、たまたま宵宮時に大蔵谷宿に宿泊しほろ酔い機嫌の中に伝家の獅子舞を舞ったことを発端として、大蔵谷村の先祖たちがこれ宮入奉納することによって伝承したとされている。兵庫県指定無形民俗文化財に指定されている。



図3：大蔵谷の獅子舞

# 早口流し

樋口俊介  
星 芳嗣  
物延 有

## 【スケジュール】

- 18:00 早口流し開始  
山ずくし
- 18:10 魚ずくし
- 18:20 豊年ずくし
- 18:25 赤いずくし
- 18:30 扇の由来
- 18:40 終了

早口流しとは、江戸時代の初期頃に生まれてから現在まで約400年間続いている古典芸能であり現在では稲爪神社の秋祭りで行われている以外では、殆ど行われていない。

この演目は、現在では保存会の方が10人ほどで行っている。題目を唱える際に扇子で顔を隠しているのが特徴的であるが、実際はメガホンやマイクなどの拡声器がなかった時代に声を反響させる為の工夫が現在も残っているのである。稲爪神社の早口流しは、海や山、お伊勢参りなどの江戸時代の明石の住人達の生活の様子や文化などに深く関わっていたと思われる題目が多く、明石という地域に深く根差している文化であることが窺える。

元々は、浜の組という漁師達の寄合が主となって行っていた事もあって海の事についての題目が他のものと比べて多い。内容は、お伊勢参りを鶯の旅に例えたり、竜宮城までの旅に例えたりとユニークなものが多い。又最後は、巧く両方のテーマが掛けられていて、いわゆるオチがあつたりと小唄や落語などのように軽く聞くことができる。

この題目は、江戸時代の歌が現在も使われているが紙などに記録されておらず、いわゆる口伝えで代々伝えられているので、その代の歌い手によって原曲からメロディーが変わってしまっていたり、歌詞も徐々に変わってしまっているそうである。

早口流しは、江戸時代から



↑早口流しを披露している保存会の方

現在までずっと行われていたわけではなく、若い人がやらなくなってしまったせいで昭和 40 年から 10 年程早口流しが披露されなかったときがある。この時は、明石市が指定無形文化財にするということで、早口流しを披露する為に、比較的若い人たちが早口流しを再開したそうで、それが現在の保存会になっている。しかし、やはり若い人達は獅子舞など華のある方へと行ってしまっているのでやはり現在も後継者不足に悩まされているそうである。

#### 【考察】

私は早口流しがどのようなものなのかイメージがしづらかったのですが、江戸時代の人を楽しむもので、それが現代に口伝えされているものだと知りました。ずっと同じように歌われているのかと思うとそうではなく、月日が流れ、徐々に変わっていき、現代の言葉にわかりやすくなっています。当時はメガホンがなく、声もれず少しでも届くようにセンスを頭につけていたみたいです。(1枚目の写真のように)

早口流しは明石にしかないみたいです。現在はおよそ 10 人でやっています。早口流しは江戸時代の初期から現在まで続いています。しかし、昭和 40 年から 10 年間途切れてしまいました。そこを保存会が復活させました。現在、後継者が不足しています。多くの若い人が早口流しを受け継いだらと思いました。

# 大蔵谷西之組獅子舞保存会

飯田健太  
内山栞  
山本祥平

## 1.はじめに

私たちは稲爪神社秋祭りに参加し、大蔵谷西之組獅子舞保存会について調査を行った。

### (1) 2011年稲爪神社秋祭り

- ◆ 8日(土) 宵宮 午後6時から午後9時  
西之組の獅子舞は午後8時から。27の芸全てを舞った。
- ◆ 9日(日) 本祭  
西之組は午前8時から町廻り(獅子、ひょつとこ、笛、太鼓)  
午前は明石駅周辺。商店が多かった。  
午後は稲爪神社、休天神社周辺。住宅が多かった。
- ◆ 10日(月)  
町廻り。8,9日に廻れなかった箇所を廻った。

### (2) 土曜日、インタビュー

午後4時過ぎから15分ほど、西之組の方にインタビューをさせていただいた。  
40代の男性二人に話をきいた。地元の方で、子供獅子の頃から参加している。  
2011年度の秋祭りに参加した、西之組の人数は約30人。参加者の大部分は、近隣住民の方で、年齢は、下は小学校4年生、上は40歳くらいで構成されている。天神町の子ども会が西之組(現在)の母体となった。

練習は、9月初旬から1ヶ月間行っている。

宮入では、30個ほどの芸を繋ぎ、45分間舞う。1芸ごとに、獅子舞を演じる人が変わる。獅子舞は通常、前と後ろで1人ずつ。3人継ぎの場合、1人追加される。

### (3) 日曜日の町廻り

朝、明石駅周辺

昼、休天神周辺



アスパア周辺	9：50～アスパア明石東側で休憩をしていたところ、合流。 10：25～アルカ スーパードラッグ前。(親子獅子)
魚の棚周辺	10：30～二手に分かれる 10：45～釣具屋。王将横 10：53～ニシキ屋楽器店 10：55～明植堂 10：58～魚の棚 11：00～魚利 11：07～Coffee Temple 11：10～たなか屋 11：16～明石焼・楽々
相生周辺	11：23～てっぺん 11：30～菊水桜町本店 11：34～一般家庭 11：41～メイビスポーツ 11：52～一般家庭 11：58～株 マエダデンキ 12：05～GROUV AKASHI GRAND AKASHI (マンション)
稲爪神社周辺	休憩(1時間程) 13：15～岡田石材工芸 13：20～一般家庭 13：23～一般家庭 13：29～一般家庭 13：38～長谷川医療機器 (株) 13：40～大蔵会館 13：51～一般家庭 13：54～一般家庭 14：02～一般家庭 14：06～一般家庭 14：10～一般家庭 14：13～一般家庭 14：16～一般家庭 14：20～一般家庭 14：25～MARINE PLACE AKASHI (マンション) 14：42～大蔵の里
調査終了	

## 2.歴史

### (1) 西之組の成立

「大蔵谷の獅子舞」の由来は諸説ある。

九州大蔵氏出身の秋月種実が京都へ行く際に、大蔵谷で宿泊した。その日が稲爪神社宵宮であったため、秋月種実は、大蔵家に伝わる獅子舞神楽を奉獻した。これが由来とされている。その獅子舞神楽は伝承され、今日に至るまで稲爪神社の氏子により、悪病、災難払い、五穀豊穰を祈願し、毎年、稲爪神社の秋祭りの宵宮で奉納されている。

また、江戸時代に大蔵谷村に疫病がはやった。その疫病を祓うために神事が行われた。その神事が伝承され、毎年祭りの期間は、氏子の家々をお祓いしながら、獅子が地域周辺を廻っている。この神事を荒神払いという。

昔、大蔵谷には西之組、中之組、東之組、浜之組の、4つの組があった。大蔵谷の獅子舞は、そのうち西之組、中之組、東之組の三団体によって行われていた。戦後しばらくして、東之組が活動を中止。その頃、西之組は「雄」獅子、中之組は「雌」獅子を演

じ、同時に宮入奉納を行い、稲爪神社の秋祭りを盛り上げていたといわれている。その後「西之組」も「中之組」も活動を中止し、大蔵谷の獅子舞は事実上消滅してしまった。

その後しばらくして「西之組」と「中之組」で新たに『大蔵谷獅子舞保存会』を結成した。獅子の舞い方に対する考え方の違いにより、二つの組は別れた。

現在では「大蔵谷西之組獅子舞保存会」(西之組)と「大蔵谷獅子舞保存会」(中之組)の二つの団体が稲爪神社の神楽獅子を復活させている。

古くから伝わる芸を後世に残したいという思いから、30年ほど前より、子供獅子という形で西之組の芸を復元した。



獅子舞「三人継ぎ」(羅漢上がり)

### (2) 復元

先人の教えや非常に古い貴重な映像の研究により、長年廃れていた芸や、簡略化されていた芸

(「手ぬぐい」という芸や、芸の最後を締めくくる芸「早又」など)を完全復元する事に成功している。

西之組は、伝統文化の保存と継承だけではなく、復元にも力を入れている。

過去に、大技である「三人継ぎ」を披露する際に歌っていた、『西之組の やけ獅子は三人継ぎで ぶちやらけた』（西之組の獅子舞は、それはそれは荒々しかった。あまりに荒々しかったので三人継ぎで肩に乗せた人を落としてしまった）という音頭の掛け声も最近になって復元された。縁起がよくないと思われがちな詠い文句だが、それを歌いながら最後まで芸をやり遂げ、成功させる姿は、観客をはじめ、見守っている獅子方までも魅了させる。歌は、最後のフィナーレの一致団結する掛け声として、また財産として、後世代々受け継がれる。



獅子舞「眠り」

まだ復元できていない芸もあるが、その芸の復元は非常に難しいらしい。

一番最近復元されたのは、「眠り」という芸と、「穴獅子」という芸である。

復元は、昔の映像を基にしている。映像は近所の方が撮影したものである。映像の年代は不明である。

### 3. 西之組の特徴

#### (1) 方針

先人達の教えや、貴重な古い資料から積極的に学びとりながら、古くから伝承されてきた「昔のままの獅子舞の姿」を残し続けていくというのが、西之組の考えである。

#### (3) 獅子

獅子の形は、高松型といわれるもの。

西之組の獅子は、「親」と「子」。保存会の獅子は、「雄」と「雌」

#### (3) 獅子舞

西之組の獅子が演じる芸は約 30 あり、非常に荒々しく豪快な獅子舞であるといわれている。

全ての事象に「静」と「動」が存在するといわれるように、西之組の獅子舞も「静と動」を兼ね備えた繊細な動きを見せる。

「静と動」を兼ね備えた、野生的で尚且つ動物(獅子)に近い動きをする獅子舞は、日本全国でも少ないといわれている。

だんじりの上で激しく舞い、獅子の心情や親子の愛情を表現している。  
「三人継ぎ」では、「羅漢上がり」という技を使用することが特徴です。

#### (4) 笛

どのような祭事でも、「七」という数が重要な意味を持つといわれている。

「西之組の笛の音色」も芸によって7通りに吹き分けられている。

だが、笛の調子は時が経つにつれ簡略化されてきた。おそらく多数の子供に教える為の簡略化などが原因だといわれている。

近年、先人達の教えや古い映像を研究する事で、「古くから伝わる音色」を復元し、現在その音色を芸に反映させている。

#### (5) 太鼓・鐘

太鼓・鐘の叩き方は「せんまの太鼓」・「獅子が舞う基本的な太鼓」・「最後の締め太鼓」という3種類に分けられる。これらは、芸の違いに応じて使い分けられる。

特に、獅子出てくる時の「せんまの太鼓」は、先人達の教えや古い映像をもとに、本来の叩き方を復元できた。同時に、より一層躍動感ある音を表現できるようになった。



だんじり(西之組)

#### (6) 三神の舞

この舞に登場してくる神様は「てんぐ」・「おかめ」・「ひょっとこ」の三体であり、古事記より『岩戸隠れ』の神話からきている。かつて日本列島を形成するにあたってイザナギ・イザナミノミコトという神々が存在していたが、イザナミが火の神を生む際、死に至り、それを悲しむイザナギが黄泉国(ヨモツクニ)を訪れるが死霊となったイザナミに追われ、何とか逃げる。イザナギは天照大神・ツキヨノミコト・スサノオノミコトを生む。

しかし、スサノオノミコトが悪さをし、責任を感じた天照大神は天の岩戸に閉じこもってしまう。太陽神が隠れてしまったゆえ、世界は真っ暗闇に。悪い神や災いなどが起きるようになってしまい、神たちが天照大神を出てこさせようと動く。力の強いタヂカラノミコトが岩戸の陰に隠れる。そしてアメノウズメのミコトが大きな樽の上で裸踊りをした。



ひょっとこ(センマ)

周りの神たちは高らかに笑い、この騒ぎを聞いた天照大神は顔を覗かせた。身を乗り出したところ、タヂカラノミコトが岩戸を挿んで外へお出ししたという。こうして無事に、高天原(世界)に光が戻ったのである。

アメノウズメノミコトとはおかめのことであり天の岩戸の前で裸で踊り、神々を楽しませた美人の象徴と崇められている神様。

タヂカラオノミコトは神々の中で一番力持ちといわれている神様でひょっとこのことである。口がゆ

がんでいるのは、天の岩戸を開ける際、あまりにもチカラを入れ過ぎた為といわれている。

### (7) 三神の舞い方

せんまの舞

笛同様、せんまの舞い方も七通りあり、「どっこ」といわれる獅子のエサを手を持って、滑稽に踊る。口や身体がゆがんでいるせいで、左右・上下の動きをするが、これは東西南北天上天地「全ての世界」の平穏を祈願した舞いを表現している。

### (8) 宵宮での舞い

三神の舞(米研ぎ)：ひょっとこ、天狗、おかめによる芸。

おおどし：獅子登場

だんじり：西之組唯一の芸。だんじりの上で舞う。

楽遊び：「だんじり」で舞った人が連続して芸をするため、体力が必要とされる。

手拭い：獅子が手拭を食べてしまう。8日の宵宮では赤い手拭が使用された。

シラミ：自分についたシラミを食べる

豆拾い：撒かれた豆を食べる（実際に食べている訳ではなく、動作のみ）。獅子は雑食である。

追い獅子：獅子自身の後ろ足を追いかける。

背のぼり

腰乗り：前の人(腰)に後ろの人が乗る。体力芸。

提灯追い：提灯をもった酔っぱらいが獅子に追われる

お山：伊勢大火くらの時代から、伝承されている芸。(獅子三匹)

眠り：うたた寝をする獅子。「静」のシーン。蝶が出てくる  
蝶舞い：獅子がススキの上にいる蝶を捕まえようとする。結局、逃がしてしまう。  
忍び：水面に映る自分の顔に驚く獅子。  
つくばい：つくばいの水を飲む。  
金担ぎ：滑稽だが力業。前の人の背に後ろの人が逆に覆い被さる。  
センマ（ひょっとこ）追い：獅子に追われるひょっとこ。  
楽遊び：転がって遊ぶ。ひょっとこも転がって遊んでいる。  
穴獅子：8ミリフィルムから復元した芸。由緒ある伝統芸。  
足芸：3人で一頭を演じる。  
二人寝：二頭の芸。  
前足：前足の毛繕いの様子。繊細で綺麗好きな獅子が表現されている。  
後ろ足：後ろ足の毛繕いの様子。獅子を演じる二人の息が重要である。  
親子獅子：離れようとする子（獅子）を親（獅子）が離さない。  
三人継ぎ：西之組に受け継がれている、羅漢登りで三人継ぎをする。  
早股：全ての芸の要素が入っている芸。スピードが早い。

#### 4.考察

- 獅子舞は、稲爪神社秋祭りにて奉納される芸である。悪病災難払い、五穀豊穰祈願を目的としたものであるため、地域住民は家に獅子舞を呼び、舞ってもらう。獅子舞は、日曜日だけでなく、月曜日も使って町廻りを行っている。それほど、獅子舞に来てほしいという家、商店が多いということである。昔から神社は人の集まる場所であるように、地域住民と獅子舞・神社の関係は親密であることが分かる。獅子舞がなくなることで、地域住民と神社の間に溝が空くのではないかと考える。獅子舞という伝統芸能が忘れられてしまうということは、昔からの考えが失われてしまうことだと考える。そのため、獅子舞は保存され、続けられる必要がある。
- 10月8日の土曜日、9日の日曜日、10日の月曜日の3日間にわたって行われた稲爪神社の秋例大祭にフィールドワークの一環として調査をしてきた。私達が参加したのは最初の2日間で宮入神事やパレードなどが行われた。初日の祭典は夕方からメインとして行われ、大統、早口流し、獅子舞保存会の宮入奉納や町廻りである。神社の門の前で宮入りの見学をした。獅子舞のアグレッシブな動きや迫力に思わず見入ってしまい、胸に熱が押し寄せてきてかなり感動した。2日目は正午から神幸祭の祭典執行で明石の町を獅子舞、神輿とともに列をなして歩き回った。私達の班は西之組に着いていく形で店の前や店の中、住宅とあらゆる所を獅子舞の荒々しく豪快な芸をなしていた。太鼓を叩いたり笛を吹いたりとはっぴを着ている者達の一体感は素晴らしく、

端から見ていた私達はそれを強く感じる事が出来たし色々な事を学ばせてもらった。日が落ち始めた頃、パレードの開始。協力として私達神戸学院の生徒もはっぴに着替えて神輿を担がせてもらった。やはり活気がありとても盛んだった。途中、地域の方々におにぎりやお茶菓子を用意してくださっていてとても暖かく優しさを感じられた。やりきった時は達成感に満ち溢れていて貴重な良い経験が出来たと思う。



獅子舞「お山」

- 西之組は、保存会と芸の違いがある。この差が、西之組と保存会が分たれた原因ではないか。親子獅子、雌雄獅子の差は、パッと分かりにくいものだが、芸をするにあたっての差は大きいと思われる。親子関係を描く芸を含む事、雌雄関係の芸を描くものというのは、絶対的に差がある。意見の食い違いが原因で、西之組が分かれたとの事だが、昔を衰退させないというのは、現代において重大な役割を担っていると感じる。稲爪神社との関係も古くから続いているので、より忠実に昔を現代に再現できているのは西之組だと思う。保存会と西之組は、芸の種類において対極に位置している。

# 大蔵谷獅子舞保存会

山下 祐司  
大野 沙亜弥  
元木 駿

## 歴史

江戸・明治・大正・昭和・平成と古くから連綿と受け継がれた獅子舞は、東の組・中の組・西の組と三つの組で、終戦後も秋祭りには披露された。その後初めに東の組が活動を中止、やがて中の組・西の組も踊りを中止し、秋祭りも寂しいものになった。その後、中の組と西の組で新たに保存会を結成する事になり、現在の大蔵谷獅子舞保存会に引き継がれている。

## 保存会概要

### 《特徴》

舞の型は激しいものが多く見られる。宵宮でも爆竹を使ったり花火を使ったりと、とにかく派手な演出が多くある。町まわりの際に、獅子舞は住宅地を一軒一軒まわるのではなく毎年決まった場所をまわっている。

一年以内に身内に不幸があった場合は、毎年獅子舞が舞っている家でも獅子舞(神事)は舞わない。メンバーは基本的に希望制だが、親が参加している場合は子供に受け継いでいくという傾向がある。



祭りに参加する子供



宵の宮での爆竹を使った演出



《神事に用いる物》

- ・獅子頭…香川県の高松市で作られている高松型と呼ばれる様式で、獅子頭には二種類あり、小さいほうが雌で大きいほうが雄。雄のほうのあご下に模様がある。80万円の費用がかかっている。
- ・かや…長さが約4メートルの長さのある獅子舞の体にあたる部分。かやの毛は馬のたてがみを使っている。



獅子頭を持った子供

- ・だんじり…太鼓を移動させる車。提灯や、笹などが飾られている。
- ・法被…獅子舞を舞う人は緑の法被に黄色い帯をしている。黄色い帯は前でねじられており、それは神社のしめ縄を表している。笛担当の人は、赤地に黒ラインの入ったものを着ている。
- ・笛…横笛をもちいる。「どこ」「中芸」「早又」の3種類あり、これらを必ず演奏する。獅子舞が高い姿勢を取ったときに高音を出すのが「どこ」である。練習時間は毎日2時間、練習を1ヶ月間行う。



太鼓の乗っただんじり



笛を吹く女性

《舞の型の種類》

一人寝  
二人寝  
どこ  
まる  
かつかえし  
だんじり  
手ぬぐい  
しらめ  
面方  
まわり豆  
腰乗り  
穴獅子  
ひよこま追い  
夫婦獅子  
あぶ追い  
おやまの道中  
きんかつぎ  
忍び  
さっちょこ  
早又  
両足  
前足  
足芸  
楽遊び  
三人継ぎ



おやまの道中



大技・三人継ぎ

## 町まわり

### 《9日のスケジュール》

- 10:00～11:00 二号線近くの住宅地
- 11:30～12:00 休天神
- 11:30～12:00 国道沿いの道路
- 12:00～12:30 明石駅近くの住宅地
- 12:15～12:45 保存会本部、事務所
- 12:45～13:50 魚の棚商店街



住宅地での獅子の舞い

### 《町まわりの様子》

9日から保存会の獅子舞は稲爪神社周辺の住宅地をまわる。これを町まわりと呼ぶ。町まわりの様子は、住宅地の前で獅子が舞いを踊り、その後を太鼓の乗っただんじりと笛を吹く人々が追いながら獅子舞の音楽を奏でるというものである。町まわりで獅子舞が舞う家は氏子の区域のすべての家ではない。お花と呼ばれるお金を保存会に渡した家のみに獅子は舞を舞う。その中で、お花でいただくお金の量の違いによって獅子が肩車を行う技や三人継などの技を変えながら舞っていた。



町まわりの様子

### 《交通規制》

保存会の人の中に交通規制を行う方がいた。住宅地が道路に面していて獅子が舞えなかったり、だんじりが道路を渡る際、安全に渡れるように交通規制を行う。



交通規制の様子

### 《魚の棚の町まわり》

保存会の獅子舞は魚の棚まで移動する。魚の棚の半分が稲爪神社の氏子の区域である。魚の棚近くのお好み焼き店の前で保存会の獅子が舞っている姿があった。このお店は稲爪神社の区域の氏子ではない。保存会のメンバーの同級生がこのお店を経営されているそうだ。お花をいただいて舞うだけではなく、同級生という人と人とのつながりの中でも獅子は舞を舞う。魚の棚で閉まっているお店に対して獅子舞が舞や技を行っている姿があった。お花をいただいたお店が閉まっても保存会の獅子舞は一軒一軒丁寧に舞っていた。

魚の棚のあるお店は、20年以上保存会の獅子舞に舞ってもらっているそうだ。保存会と地域とのつながりの深さを感じた。



魚の棚での獅子の舞い

### 《獅子とだんじりの関係》

通路の狭い場所や人の多い場所で獅子とだんじりが近づくことができない場合、お互いの姿が見えないので獅子舞の技が決まったあとにだんじりの太鼓の音を合わせることはできなくなる。そうならないために、獅子舞の技が決まると獅子舞の近くにいる人がだんじりに向かって掛け声をかけ、それを合図にだんじりの太鼓を叩く。道路の狭い住宅地の町まわりや魚の棚の人が混み合った場所で行われていた。



魚の棚でのだんじりの待機

## 考察

### 【宵宮】

保存会の宵宮は獅子舞の舞いやひょっとこ、おかめ、天狗の動き、爆竹や花火を使った演出などすべてが華やかだった。しかし、派手な舞の裏で三人交代で汗をかきながら一生懸命太鼓を叩く、保存会の男性や真剣に笛を吹く女性グループがいることがわかった。派手さの裏にある裏方の努力があつてこそ、初めて保存会の舞いは成功しているのだと思った。

山下 祐司

### 【町まわり】

一緒についてまわってみたが、まわりに行つたところはどこも、嬉しそうにしていた。ただ、お花をいただいたところを作業的にまわるのではなく、舞う前にその家やお店などに挨拶をしあい、舞った後にはお互いにお礼をしあっていた。ただの提供者と顧客の関係ではないように感じた。範囲外のお店でも、長い友人のお店であると少し遠くても舞いにいっていることから、そのようなことが考えられる。

元木 駿

### 【まとめ】

獅子舞は単なる伝統行事ではない。近年は地域社会の関係が希薄になりつつあるが、地域住民が協力して取り組む「獅子舞」という伝統行事は、地域に大きな役割を果たしている。獅子舞に参加することで住民同士につながりが生まれる。また、獅子舞という伝統行事が存在することで、地域に誇りと愛着が生まれる。このように、獅子舞は地域社会を守っていくという大きな役割を担っている。伝統文化・伝統芸能を継承するために獅子舞を舞うことももちろん重要であるが、それだけでなくその地域の人間関係やつながりを守るために獅子舞を舞うことも重要なのである。

大野 沙亜弥

# 神幸祭

樋口俊介  
星 芳嗣  
物延 有



## 【スケジュール】

- 12:00 神社で祈祷。 ↑魚の棚商店街のアーケード内
- 12:40 天狗が登場、10分ほどかけて民家の天狗  
や商店を回る。
- 12:50 天狗と子供たちがバスに乗る。
- 13:00 魚の棚商店街到着、周囲を練り歩く。
- 13:10 商店街のアーケード内で1年間の無病息災を祈願する舞を踊る。
- 13:20 バスに乗ってどこかへ行く。
- 16:00 神社に到着。

神幸祭は2日目(10月9日)の本宮で催された。この演目は、天狗が槍を持っていたのが印象的だった。

神幸祭の始まりは、正午頃で、まず境内で神社の関係者、子供たちが神主さんの下でお払いなどの神事を行っていた。そして、その間に神輿や牛の置物などが運ばれていた。

12時40分頃に境内から天狗が槍を持って、後ろにお祓いを受けた祭りの関係者や子供たちを従えて登場した。そして、天狗は歩きだしたのだが天狗の前には塩を持った人がいて、天狗を先導しながら塩をまいていた。天狗は神社の境内の先の階段までは、草履で歩

いていたが、階段を降りたところで草履から歯が一本しかなく、しかも歯の部分が高い下駄に履き替えて神社の前の鳥居まで時々よろつきながらも、しっかりとした足取りで歩いていた。鳥居にたどり着くと、又草履に履き替え、鳥居の前で「ヤアヤアヤア」という掛



↑ 神社の前の歯の高い下駄で歩く天狗

け声とともに槍を突く動作をしていた。

その後、町を練り歩きながら民家の他に歯医者や銭湯などの前でも天狗は槍を突く動作を行っていた。実



→ 商店の前で一年間の無病息災を祈願する舞をする天狗

際に天狗が槍を突く動作を行った店の方にお話を聞くと、天狗が槍を突いているのはその家の厄を払って一年間の無病息災を祈っているのだということだった。又、天狗に突かれた後突かれた民家や商店の人達は祭りの関係者のような人に幾らか包んだ封筒を渡していた。

天狗の一行は、住宅地を練り歩いた後少し開けた場所で待っていたバスに子供たちと乗って魚の棚商店街まで走って行った。その時に後ろには囃し太鼓などを載せたトラックが数台付いていっていた。

バスは1時頃に魚の棚商店街の近くへ止まって、又同じような隊列を組みながら、魚の棚商店街へ入って行った。魚の棚商店街では、先に獅子舞がいてそのせいかは分からないが入ってすぐのT字路で槍を突く動作を行っていた。その後、商店街の周りを練り歩いた後、1時20分頃に又バスに乗ってどこかへ行ってしまったがそこまでは追いかけていけなかった。



魚の棚商店街で天狗を  
←物する獅子舞の方



### 【考察】

実際に参加をして、なぜ天狗は道に塩をまいているのか、建物の近くにまいているのもあればそうでないものもあり、実際に塩をまいてもらった人に話を聞きました。どうやら、1年間何事もなくより良い年にするためにお払いをされているみたいです。お払いは、民家や銭湯、歯医者など天狗が登場してから神社に到着するまで行われていました。天狗が「ヤアヤア！」と掛け声をして槍を突き出している時は迫力があり、子供がものすごく恐がっていました。

子供連れが多く参加していたので、おじいちゃん、おばあちゃんとのコミュニケーションや自分たちの町や稲爪神社のことを知ることができるのでとてもいいことだと思いました。

稲爪神社の神事は、各明石市指定無形文化財、兵庫県指定無形文化財の指定を受けており、それぞれに優れた文化伝承儀式です。これらに参加できてうれしく思います。

# 子供神輿

岡田りさ  
鏡原菜津子  
田邊茉莉加

## スケジュール 10/9(日)

- ・ 10:45~ 大蔵町子供神輿について行く
- ・ 13:15~ 大蔵本町子供会の稲爪音頭を見る
- ・ 13:30~ 子供会会長に話を聞く
- ・ 13:40~ 集合写真を撮る
- ・ 13:45~ 本町の子供神輿出発 ←ついて行く
- ・ 15:20~ 子供たちに話を聞く

大蔵本町の子供神輿は、ゲン担ぎのために稲爪音頭を踊ってから出発する。子供はひもを引いて神輿を引っ張って行くが、大蔵海岸からは大人が神輿を担いで行く。神輿は重いため、前に背の高い人 8 人、後ろに背の低い人 8 人が分かれて担いで行く。子供会会長によると、子供神輿の一番の誇りは、手作りの神輿だそうだ。



↑大蔵町の子供神輿。

子供が神輿の前後のひもを持ちながら神輿を進め、10mごとに休憩する。



←大蔵本町の駐車場。

みんなで輪になり稲爪音頭を踊る。踊っているのは女の人だったが、その中に寺嶋先生が加わっていた。



大蔵本町の子供会集合写真→  
会長さんや早口流しをしていた  
河合さんも写っている。



←本町の子供神輿出発。

子供は掛け声を出しながらひもを持ち、列に並んで神輿を進める。



←本町の通称「ダイゴロウ」  
ラジカセを乗せ、神輿の後ろ  
を音を出しながらついて行く。

神社の神輿は太鼓を叩くことで始まる。子供  
が2人神輿に乗り、太鼓を叩いて指揮をとる。



神輿は運営のために町内を回って御  
花（祝儀）をもらう。御花の金額は地  
域によって異なるが 3000 円程で、お金以外に商品券を入れることもある。また、  
御花は地域によっては強制するところもある。今年、大蔵中町は少子化による  
子供の人数減少により参加していなかった。

## 祭りに参加した子供会班の感想

山下俊輔 祭りに参加してみて事前調査では見えてこなかったものがたくさん見えた。まさに「百聞は一見に如かず」という言葉がピッタリな二日間だった。

岡田りさ 祭り全体も子ども神輿も多様な歴史があるので、これからも受け継いでいってほしいと思いました。

小野貴紀 今回子供会の担当として少子化のえいき影響でお祭りの規模が縮小したり子供御輿が無くなったりと少子化というものを肌で感じる事が出来ました。

鏡原菜津子 私も子どものときに子ども会のお神輿に参加したことがあったのですが、伝統を次の代に受け継いでいくことの大切さやお祭りの意味など、子どものときには理解していなかったことを今回の調査を通して改めて考えることができました。

田邊茉莉加 2日間を通してみんなで力を出しあって何かをする楽しさを体感しました。地域の力であんなに盛大な祭ができるんだなと驚きました。少子化で子供は減ってきているけど、これから先も恒例行事としてこのお祭が続いてほしいなと思います。

津田智也 少子化ではあるが、子どもの元気な姿に感動した。町内会の大人も子どもも頑張ってる姿が印象に残り、この行事はずっと続いてほしいと思った。

### 考察

今回の祭りを子供会に注目してそこから簡単ではあるが考察をしてみる。子供会の神輿担ぎの行事はもともと大蔵町、大蔵本町、大蔵中町で例年行われていたが、近年の少子化の影響により今年は大蔵町、大蔵本町で行われた。ここからわかったことは少子化の影響が祭りにまで影響すること。少子化という社会環境が祭りにまで影響を及ぼすほど社会環境と祭りは密接な関係だといえる。

やはり、「人」というものの存在が大切だといえる。伝統を継承するには伝える人の力が必要不可欠である。しかし、伝える人がいなくなってしまうのは祭りが衰退してしまう。最悪、祭りそのものが消滅してしまう。それを防ぐために社会環境を整備すること、伝える人の数を増やすことがこれから先、祭りを伝えるために必要だと言える。



CENTER FOR AREA RESEARCH AND DEVELOPMENT

**CARD**

KOBE GAKUIN UNIVERSITY